

世界遺産

モン・サン・ミシエル

と北フランスを巡る

北フランスを代表する
人気の聖地
モン・サン・ミシエルの
見どころや歴史、グルメまで、
その全てを紹介！



修道院周辺に広がる草原地帯と、その草をむ羊たち。

あこがれの
モン・サン・ミシエル
旅行記

— Mont-Saint-Michel travel record —

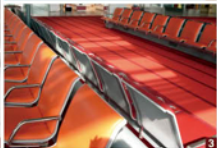


日本を出発「華の都」パリへ

パリへの空の玄関は、フランス第5共和政初代大統領の名を冠したシャルル・ド・ゴール空港。ここから市内の中心地へは、バスや鉄道で約20分。古代、中世、近代、現代のさまざまな時代の文化が渾然一体となった文化都市だ。さあ、あこがれの旅を始めよう。



朝日に輝くパリ市内。フランスの首都であり、人口200万を超える同国最大の都市でもある。



1.シャルル・ド・ゴール空港の連絡通路。2.羽田空港からは12～13時間程のフライト。3.シャルル・ド・ゴール空港の待合ロビー。

モン・サン・ミシエルを
知る



モン・サン・ミシエル修道院の全景。

chapter

01

中世以降、

人々を魅了してやまない

モン・サン・ミシエル。

歴史的背景をはじめとする

数多くの見どころは、

この地を語るうえで

どれも欠くことができない。

まずは、

そんな島の基本を

知ることから始めよう。

まずはじめに・・・
モン・サン・ミシェルとは

「西洋の驚異」と称される
フランス随一の聖地



北フランスのサン・マロ湾に浮かぶモン・サン・ミシェル。ここはパリと並ぶ国内屈指の観光地で、観光客は年間100万人以上にも及ぶ。島内には同名の修道院が建ち、島のシンボルとなっている。

写真／潮が満ち始めたモン・サン・ミシェル。まもなく完全に海に囲まれ、修道院が建つ岩山のみが海上に浮かぶ状態になる。このような光景から、「海上のピラミッド」とも呼ばれている。





急峻な坂道や階段が多い修道院のふもとは、岩山の傾斜に沿って数多くの土産物屋や宿泊施設が軒を連ねている。

ルマンディ地方のサン・マロ湾上に浮かぶ小さな島、モン・サン・ミシエル。島の中央部には修道院があり、中世以降、フランスを代表する聖地として世界中から巡礼者が訪れている。

約九七〇〇平方メートルの島内とその周辺には数々の見所があり、なかでもサン・マロ湾の干潟はとりわけ大きな特徴といえる。干満の差が大きいこの干潟は、満潮時になると島を完全に孤立させるため、まるで海に城が浮いているかのような神秘的な光景を生み出すのだ。

本来、モン・サン・ミシエルは、先住民ケルト人の聖地であり、「モン・トンプ（墓の山）」と呼ばれてあがめられていた。そこに、現在の修道院

の起源となる聖堂が建てられたことから、カトリックの巡礼地となったのである。

このような歴史的価値や自然環境から、一九七九年には島全体が、二〇〇七年には干潟を含む緩衝地域が世界遺産に登録された。さらに、同じく世界遺産である「フランスのサンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路」の一部に含まれており、宗教的にも重要な地となっている。



石造りの壁が印象的な修道院の外観。長い歴史を感じさせる重厚な造りだ。



見て癒される 北フランスの名所

モネをはじめとする印象派の画家たちに愛された北フランスは、素朴な町や村に中世の名残を色濃く残し、フランスのなかでも特に古い文化を守り続けている。

リール Lille



ベルギーと国境を接する北フランスの中心的都市リールは、かつて織物産業や機械産業などの産業都市として栄えた。フランス中部とは異なる独自の文化が根付いている。



1.商工会議所の時計塔が印象的なリール中心部の街並み。**2.**ライトアップされたオペラ座は、19世紀の新古典主義建築の建物。**3.**優雅な外観のバレ・デ・ボザールを擁するリール宮殿美術館。中世から20世紀を中心とした彫刻や絵画など、数々の素晴らしい作品が展示されている。



4.さまざまな建築様式が混在する旧市街。**5.**街の中心部にそびえ立つ像は、フランス革命戦争時、オーストリアによる包囲に抵抗したレジスタンスを追悼するために設置されたもの。**6.**美術などの文化活動が盛んなリールでは絵画の露天商も多い。(Photo=pjhpix / Shutterstock.com)

カレー Calais



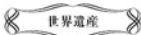
海峡と田園に囲まれた小さな町カレーは、英仏海峡トンネルのフランス側の玄関口だ。その地理的要素から交通網が発達し、工業地域としても栄えてきた。



1. イギリスまで約38kmのカレーは、海運の中心となっている。**2.** カレー市庁舎の鐘楼。2005年に世界遺産「ベルギーとフランスの鐘楼群」として追加登録された。**3.** 市庁舎前にある彫刻「カレーの市民」は、百年戦争で人質となった6人の市民を称えて、「近代彫刻の父」と称される彫刻家ロダンが制作した。



4. 放牧されているロバ。近年、フランス国内外ではノルマンディ産のロバのミルクをベースにした石けんや化粧品に注目が集まっており、お土産に購入する人も増えている。**5.** 潮風を受けて回転する羽根車。市街地から離れるとこうしたのどかな風景が広がっている。



モン・サン・ミシエルと北フランスを巡る

2014年5月10日 version1.0発行

ISBN978-4-902896-01-5

著作 株式会社 エディング
編集 小出彩奈・梶間伴果・多田あゆみ・谷伸子
デザイン 小出彩奈・梶間伴果
写真 Shutterstock・木幡ちひろ

発行人 武井誠

発行 株式会社 エディング
〒162-0811 東京都新宿区水道町2-14 柴木ビル2F

【お問い合わせ】 eding@eding.co.jp

©Eding Corporation 2014

本書の無断転載、複製、頒布、公衆送信、翻訳、翻案等を禁じます。

一部または全部をアナログ化することは、個人や家庭内の利用でも著作権法により認められておりません。

エディングの書籍についての新刊情報・詳細情報は、以下をご覧ください。

<http://www.eding.co.jp/>